

火災が発生したら、あるいは見つけたら？

■火災が発生したら

火災が発生した場合は、大きな声で周りに火災の発生を知らせるとともに、消火に努めましょう。

■大地震時の消防の救助は期待できません

119番通報も必要ですが、大地震の場合には通信回線が大混雑（輻輳）して電話が使えません。また、火災を含め被害が広範囲にわたって同時に発生し、建物の倒壊、橋の段差、道路の損壊等による通行不能箇所が多く発生するため、消防・警察による救助はあまり期待できません。

■消火はまず消火器で

中央の森式番街の消火器は、普通火災・油火災・電気火災に対応しています。

日頃から自宅近くの消火器の設置場所(*)を把握しておき、いざという時にすぐに取りに行けるようにしておきましょう。

(*) 各棟の消火器・屋内消火栓の位置は、「消防・防災計画 付図1 消防用・緊急用設備等の配置図」をご覧ください。



■屋内消火栓は停電時は使えません

高層棟（6・7号棟）に設備されている屋内消火栓は、強力ですが階下が水浸しになること、及び地震と同時に停電が発生した場合は、消火栓用のポンプが電動モーターで駆動していることから、使用できなくなります。



■避難のタイミング

消火に努めても、**天井まで火が回ってしまった場合は、生命の危険があります。** 消火を諦めてただちに安全な場所に避難してください。

■火災を見つけたら

大きな声で周囲に火災を知らせ、手近の消火器で消火に努めてください。ただし、火の勢いが強いときは消火を諦めてただちに安全な場所に避難してください。

■避難する時は貴重品は諦める

火災の有毒煙を吸い込むと生命の危険があります。**貴重品は諦めて身一つで避難**してください。

別の防災行動基準「135 煙の恐ろしさ」（東京消防庁編）をご覧ください。

以 上